

JTU Stories

公益社団法人日本トライアスロン連合 <JTU マガジン Web版> 2018年度 Vol.2

トライアスロン 2018

the home of
triathlon



今年の前半戦が終了 ナショナルチームを追う若手は誰!?

2020年の東京オリンピック出場へのポイントレースは、ITU世界トライアスロンシリーズ(2018/横浜)で始まったばかり。ナショナルチームは海外を中心に転戦しているが、後を追う若手アスリートはどんな活躍をしているのか。今年前半戦を振り返ってみた。

NTT
西日本



“光”ひろがる。ひびきあう。

さあ、
行こうぜ!

挑戦のその先へ。





横浜で 力を発揮できなかった ナショナルチーム

5月12日(土)に神奈川県横浜市で行われたITU世界トライアスロンシリーズ(2018/横浜)は、東京2020オリンピック競技大会出場資格ランキングポイントが獲得できる最初の大会となったため、ITU世界ランキングトップ選手を含む世界各国の強豪選手女子53名、男子55名が参加。女子は、昨年引き続きフローラ・ダフィ(バミューダ諸島)が優勝し、男子はマリオ・モラ(スペイン)が3連勝という結果となった。

日本選手は、女子は15位高橋侑子(富士通/東京)、16位井出樹里(スポーツクラブNAS/神奈川)、18位佐藤優香(トーションパートナーズ、NTT東日本・NTT西日本、チームケズ/山梨)、27位久保埜南(トーションパートナーズ・チームケズ/山梨)、29位瀬賀楓佳(トーションパートナーズ・チームケズ/山梨)、

30位上田藍(ペリエ・グリーンタワー・ブリチストン・稲毛インター/千葉)。男子は、32位小田倉真(三井住友海上/東京)、34位古谷純平(三井住友海上/東京)、36位石塚祥吾(日本食研/愛媛)、40位細田雄一(博慈会/東京)、48位前田凌輔(ベルリオ/愛知)となり、開催国ながら大声援に応えるパフォーマンスをみせることができなかった。

6月10日(日)には、ITU世界トライアスロンシリーズ(2018/リーズ)が行われたが、10位高橋、15位佐藤、18位井出、29位瀬賀の成績。翌11日(月)には、ITUトライアスロンワールドカップ(2018/ウアトゥルコ)が行われ、女子は11位加藤友里恵(千葉県トライアスロン連合)、12位蔵本葵(東京ヴェルディ/東京)、男子は18位古谷、32位小田倉、50位前田となった。

あなたは、ほかの誰とも違う。

生きてきた環境が違えば、見えている世界だって違うかもしれない。

でも、私たちは同じだ。

同じように夢を持ち、同じ空の下で暮らしている。

この世界で、ともに生きるために。

大和ハウスは、人が生きていく環境すべてを

よりよいものにしていきたい。

2020年の東京で、あたらしい景色をつくろう。

世界の人たちが違いを越えて、ひとつになれる場所を。

社会の中にある壁を乗り越え、ともにチャレンジできる場所を。

それを見た人たちの心には、あたらしい常識が生まれる。

私たちは、違う。私たちは、同じだ。

One Sky

家、そして近未来をつくる。



東京2020オフィシャル施設建設&住宅開発パートナー

岸本がアジアU23 チャンピオンに

それでは、今年のシーズンの前半戦をナショナルチームを追う若手を中心に振り返ってみたい。

6月10日(日)開催のNTT ASTCトライアスロンアジアカップ(2018/大阪城)は、総合距離25.75kmのスプリントで行われ、女子はナターシャ・ボウヤー(ニュージーランド)、などの南半球勢がスイムで先行するなか、武友綾巳(福岡県トライアスロン連合)、中山菜々美(立命館大学)、潮田小波(中京大学)が続いた。後を追ってバイクに移った岸本新菜(福井県スポーツ協会/福井)が先頭に立ち、12名が第1集団となった。ランではデジレー・リドノール(カナダ)と岸本、潮田のサイドバイサイドが最終周回まで続き、結局リドノールが逃げ切って優勝、岸本は最後に離されて3秒差で2位となった。

その2週間後、6月24日(日)に愛知県蒲郡市で

開催されたNTT ASTCアジアU23トライアスロン選手権(2018/蒲郡)は、6番目でスイムを終えた岸本がバイクで9名の第1集団を形成してスピードを上げ、ランでは岸本とヒョーリム・ジョン(韓国)、イエジン・パク(韓国)の3名が競り合う展開に。勝負は最後のピクトリーロードまで持ち込まれ、一度抜かれたジョンを岸本が再度抜き返し、優勝した。「2週間前の大阪城では3秒差で2位となって悔しかった。駆け引きがたくさんある展開の中、力を出し切れてうれしい。スイムで出遅れてもバイクには自信があった。昨年から強化してきたランを活かしてしっかり走ることができたので、最後のスプリントでの勝負は気持ちで負けずに強気で走った。優勝できてうれしい」と岸本。





一般財団法人 博慈会

博慈会はトライアスロンを応援しています

すべては地域医療のため、グループが一体となり邁進してまいります



一般財団法人 博慈会 Healthcare foundation

厚生労働省臨床研修病院 東京都災害拠点病院

博慈会記念総合病院

東京都足立区鹿浜 5-11-1

Tel 03-3899-1311 Fax 03-3855-2851

URL <http://www.hakujikai.or.jp> E-mail : info@hakujikai.or.jp

完全型療養病床・回復期リハビリテーション病棟

長寿リハビリセンター病院

東京都足立区鹿浜 5-13-7

腎臓内科・人工透析

博慈会腎クリニック

東京都足立区鹿浜 5-5-18

看護師養成校

博慈会高等看護学院

東京都足立区鹿浜 2-1-15

医療法人社団 健康増進会

博慈会田園クリニック

東京都足立区舎人 2-19-18

博慈会スポーツ振興

HAKUJIKAI Athlete Lab

東京都足立区鹿浜 4-10

博慈会記念総合病院 別館



博慈会記念総合病院 本館



長寿リハビリセンター病院



田園クリニック



腎クリニック



高等看護学院





U23選手が快走

その翌週、7月1日(日)に宮城県七ヶ浜町で開催された日本U23トライアスロン選手権(2018/仙台)では、岸本がバイクでよく健闘したが、最後のランで遅れて1分28秒差の5位となった。代わって優勝したのは、ランが安定していた杉原有紀(流通経済大学)だった。同時開催のU19日本選手権では、スイムで先行した中山彩理香(東京都立町田高校・アリーディ)が終始トップに立ち優勝した。

若手の女子は、ここにきて岸本が頭角を現してきた。仙台大会では連戦の疲労もあり5位入賞に終わったものの、6月2日(土)に中国で行われたASTCトライアスロンアジアカップ(2018/泰州)でも4位に入っている。先にナショナルチーム入りした久保埜と瀬賀を岸本が追い始めた、という構図だ。その後に続くのは、高低差がありタフなコース

とされる仙台大会のランコースで力を見せた杉原。

その後ろを、潮田、中山、加後、松本が追随している。

男子に目を向けると、大阪城大会では日本選手対オーストラリア勢の対決となった。得意なスイムで先行する望月満帆(チームケズ山梨/山梨)、山本康貴(立命館大学・AS京都/京都)、北條巧(日本体育大学)、谷口白羽(トヨタ車体/愛知)らが続き、その後をカート・ウェズレーとルーク・ペイトのオーストラリア勢が追う。バイクでは上記を含む6名が第1集団で逃げ、ランに移ると北條、ウェズレー、ペイトの競り合いになった。最後には北條がリードし、5月のラヨン大会に続く、アジアカップ2勝目を飾った。バイク第2集団から追いつけた細田雄一(博慈会/東京)は、フィニッシュまでよく粘り3位となった。

SHIMANO BICYCLE COMPONENTS

すべてのサイクリングファンの笑顔を支える — シマノ バイシクルコンポーネンツ

レースに勝つために走る。初めてのサイクルスポーツイベントに挑戦する。仲間たちとロングライドに出かける。

様々なライディングシーンに圧倒的な高性能で応え、すべてのライダーに笑顔をお届けしたい。



DURA-ACE



SHIMANO ULTEGRA



SHIMANO 105



SHIMANO Tiagra



SHIMANO SORA



SHIMANO Claris

DURA-ACE

SHIMANO ULTEGRA

SHIMANO 105

SHIMANO Tiagra

SHIMANO SORA

SHIMANO Claris

レース

スポーツ

ツーリング

妥協なき高性能。揺るぎのないシマノの製品づくりは
すべてのコンポーネンツに息づいています。

株式会社シマノ シマノ セールス 株式会社

〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町 1-5-15 「自転車お客様相談窓口」ナビダイヤル0570-031961 (IP電話からは072-243-2829をご利用ください)
● <https://bike.shimano.com> ● 広告の内容は2018年4月20日現在のものです。 ● 商品の色は印刷の性質上実際とは多少異なることがありますので、ご了承ください。

北條が ナショナルチームの 後を追う

NTT ASTCアジアU23トライアスロン選手権では、山本、前田、古山大（日本食研／愛媛）、北條らが先行し、バイク終了時点でもこの4名が最初にランジョンに帰った。ランでは山本が後退するなか、「世界で勝つため、アジアカップ・選手権では負けたくない。ランを31分台で走るのを目標としたい」とレース前に語った北條が少しずつ前に出てトップを奪い、大阪城大会に続いて2連勝となった。その北條はレース後、「日本選手で逃げる理想の走りができた。日本選手権で古谷選手、小田倉選手に勝つには、今後はバイクとランの両方で強化したい」と語った。

日本U23トライアスロン選手権では、北條が次週のNTT ASTCトライアスロンアジアカップ（2018／高松）でのポイント獲得を狙って欠場。スイムから古山がリードするなか、大阪ではあと一歩だった安松青葉（日本体育大学）と佐藤練（福井県スポーツ協会／福井）がランで頑張り、その結果安松が優勝、古山の2連覇はならず2位、佐藤が3位となった。

U19では、望月がスイムをトップフィニッシュし、バイクでも健闘したが最後のランで失速。望月をスイムから追走した大浦直繁（日本体育大学）が初優勝した。





TYR

<http://www.tyrsports.net/>



2番手は古山か

男子では、昨年から頭角を現しつつあった北條が、前田の後を追ってナショナルチーム入りに名乗りを上げたという格好。その次に来るのは、NTT ASTC アジアU23 トライアスロン選手権、日本U23 トライアスロン選手権とも2位となった昨年のU23 日本選手権優勝の古山。昨年のASTC U23 アジア選手権優勝の山本は、スイム、バイクでのアドバンテージを生かし切れない結果が続いている。そのほか、安松、ASTC アジアカップ (2018 / 泰州) でも6位となった佐藤、同レースで7位の内田弦大 (関西大学) も今後の戦い方によっては、面白い存在となりそうだ。

U19の望月は、スイム、バイクでのパフォーマンスをどうランに繋げるかが課題。今後注目し

たい。

7月6日(土)には、香川県高松市でNTT ASTC アジアカップ (2018 / 高松) が開催される予定であったが、折からの豪雨と災害のため中止となった。選手にとってはステップアップのためのポイントが獲得できる貴重なレースだっただけに、とても残念だった。

この中国・四国地方を中心として起こった「平成30年7月豪雨」で亡くなられた方たちのご冥福をお祈りするとともに、被災された方たちの一日も早い復興を願い、JTUでは「平成30年(2018年)7月西日本豪雨・トライアスロン義援活動のお願い」(www.jtu.or.jp参照)を行っている。



Drop the Fog.

SEE MORE. RIDE MORE.

FLIGHT JACKET


OAKLEY®

OAKLEY.COM

パラトライアスロンでは土田、谷が安定したレース

5月12日(土)に横浜市で行われたITU世界パラトライアスロンシリーズ(2018/横浜)では、昨年に引き続きPTWC土田和歌子(八千代工業/東京)が優勝。「非常に緊張したが、多くの皆さまの声援のおかげでパフォーマンスが発揮できた。今後も今の状態と向き合いながらスキルアップを目指して一日一日を頑張っていく」とコメント。同じく2連覇のPTS4谷真海(サントリー/東京)は、「優勝できてうれしい。課題はまだまだあるが、昨年よりスイム・バイクそれぞれで成長を感じられたため、9月の世界選手権を目指して引き続き頑張りたいと思う」と語った。

その他入賞を果たしたのは、PTS2秦由加子(マーズフラッグ・稲毛インター/千葉)6位、PTVI円尾敦子(アルケア・ゲンゼスポーツ/兵庫)4位、男子はPTWC木村潤平(社会福祉法人ひまわり福祉会/東京)5位、PTS2中山賢史朗(東京ガスパイプライン/東京)8位、PTS4宇田秀生(滋賀県トライアスロ

ン協会)6位、PTS5佐藤圭一(エイベックス/愛知)5位。PTVI中澤隆(サイネオス・ヘルス・タカラエムシー・インターフィールド・青山トライアスロン倶楽部/東京)は9位という結果だった。

5月28日(月)のITUパラトライアスロンワールドカップ(2018/イートンドニー)では、男子PTS4荒力(大分県トライアスロン協会)とPTS5梶鉄輝(兵庫県トライアスロン協会)が出場し7位入賞、JTU強化指定選手に認定された。

6月30日(土)のITU世界パラトライアスロンシリーズ(2018/イゼーオ)では、女子PTWC土田2位、男子PTS4宇田3位と表彰台を獲得したが、PTS2秦、PTVI円尾、PTWC木村、PTS5佐藤は入賞に終わった。

選手は、8月10日(金)のASTCアジアパラトライアスロン選手権(2018/マウントマヨン)と、9月15日(土)のITU世界パラトライアスロン選手権(2018/ゴールドコースト)へ向けて調整を進める。

